

会 議 録

■会議名	倉敷市社会福祉審議会 高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定専門分科会（第4回）
■日時	令和5年11月29日（水） 14:00～15:08
■場所	倉敷市水道局 3階 大会議室
■出席者	秋山（み）委員、安藤委員、衛藤委員、生水委員、亀浦委員、河相委員、後藤委員、兒山委員、佐賀委員、西岡委員、松本委員、秋山（正）委員、矢野委員、藪田委員、山口委員、福元委員、木曾委員、宇治郷委員、早川参事（健康長寿課長）、林副参事（介護保険課長）、宇野副参事（地域包括ケア推進室長）、玉井副参事（指導監査課長）、小野社会福祉部長、遠藤建築部参事、佐藤副参事（保健福祉推進課長）、吉田健康長寿課長代理、小野地域包括ケア推進室主幹、田邊介護保険課長補佐、坂出地域包括ケア推進室主任、小幡地域包括ケア推進室副主任、仲健康長寿課主任 コンサル
■欠席者	石元委員、中塚委員、三谷委員
■傍聴者	0名
■報道機関	0名
■進行	1 開会 2 議事 （1）計画素案について 資料1、計画素案に基づき、事務局から説明。 3 閉会

■議事（協議内容）

（1）計画素案について（資料1、計画素案）

発言者	発言要旨
委員	26ページの介護医療院の給付費実績が令和3、4、5年度と下がっている。私の認識では増えているように思うのですが、どうしてこういう数字なのか理由を教えてください。
事務局	推計の作業上の都合による。御存知のように介護療養型医療施設が、今年度いっぱい制度的に廃止になり、今年度中に全部、介護医療院に移行予定。9期の令和6～8年度のサービス見込み量の推計の中で、地域包括ケア見える化システムを使って、9期分を出していくときに、その前の年度からの伸び率を使って算出する仕組みになっている。 例えば、今の段階で100床ぐらいあるものが次の年に例えば200床になるとして、その年だけは倍の伸び率でも、その次の年からも倍、さらに倍というふうに伸びていくわけではないので、現実的な伸び率で算出するために、自動推計よりもやや抑えた形で出させていただいている。

	事務局でも、実際この5年度の見込みというのは、こんなに下がるわけではないと認識しており、特に下がる予定を見込んでいないというのではない。
委員	<p>43 ページ、死亡場所別死亡率の推移について、令和3年度の段階で病院が3,327名、全体の6割強ということで、確か最盛期は2000年代に病院が83%まで上がっていたと思うので、そういう意味では亡くなる場所の選択肢が増えた。私自身、皆さんが病院で亡くなるのが決して幸せではないというふうに思っており、保健計画でも適切な場所、自宅等での看取りが推進されているので、良い傾向だと思っている。</p> <p>この中で自宅のところ816名は、当然孤独死とか不審死が混ざっている数値で、どれぐらいの方が本当に看取りという意味で、自宅で亡くなったかというのはわかりにくいので、そういう数値があれば教えてほしい。</p> <p>どれぐらいの方が自宅で看取するのかあるいは逆に、不審死とかがどれぐらいあるのか。確かこの自宅死亡、一番多いのは東京都で、その多くは残念ながら孤独死や自殺という実情があるので、その辺りの数字がわかれば、教えていただきたい。</p>
事務局	この統計は、保健所の倉敷市保健衛生年報をもとに作成している。自宅でお亡くなりになられた方で、孤独死とか不審死が含まれているか含まれていないかというところも含めて、現在、数字の方は持ち合わせていないため、保健所に確認してみる。
分科会長	不審死の統計としては警察ですかね。
事務局	死亡場所についての数字が人口動態統計からの数字であるかもしれない。保健所に問い合わせし、公表できる数字かどうかということも含めて確認をさせていただいて、分かれば御説明させていただきたいと思う。
委員	<p>意見と感想として、107ページの認知症身元不明高齢者一時保護事業の中で、「ひとり歩き高齢者の警察による対応」という表現をされている。これについては家族の会、個人、御家族も、これを徘徊と示しているところがまだ多い。県によっては徘徊という言葉を使わないと宣言しているところもある。</p> <p>そういう意味では倉敷市はしっかりその方や御家族の気持ちに寄り添った表現でひとり歩き、と書いていただいているなどと思った。何か徘徊をひとり歩きにしようという申し合わせがあるのか。</p>
事務局	申し合わせ等は特にはしていないが、倉敷市では徘徊という言葉はあまり使っていない。ひとり歩き高齢者の方という形で使っている。
委員	徘徊は意味なくウロウロするというイメージの住民の方が多いが、本人にとっては家に帰ろうとしているとか、どこかに行こうとしている、ウロウロしていることを徘徊と言われたことがある、という御家族の声があるということを申し添える。
委員	<p>118ページについて、認知症カフェ箇所数は現在25か所あって、来年26か所になるのか、1年毎に26か所なのか教えてほしい。</p> <p>あと、認知症のページについては、施策の展開が何か消極的というか、数値が下がったりしているものもあるが、展開するのに何か支障やハードルがあるからこういう形になっているのか教えてほしい。</p>
事務局	認知症カフェは全市で26か所は維持したいということで目標値を挙げさせていただいている。コロナの影響で休止などを余儀なくされていた時期もあったが、現

	<p>在は多くが再開してきている。今後は、認知症カフェだけではなく、チームオレンジをはじめ、多様な形での認知症の方の居場所や活躍の場を展開したいと考えている。</p> <p>本人発信の機会の目標値が、令和4年度実績より、下がっている部分について、令和4年度は、分科会の方でも御紹介させていただいたが、倉敷市の認知症ケアパスを作成するときに、当事者と家族を交え、車座会議を年複数回開催したため実績値が多くなっている。</p> <p>現在、本人ミーティングの開催数も増加し、認知症の方の活躍の場や発信する当事者も広がってきている。また、認知症の方が御自分の体験や思いを発信できるまでには、丁寧に関わりや御支援をさせていただく必要があり、目標指標としては7回を維持していくこととしている。</p> <p>認知症初期集中チームについても、目標指標が令和4年度実績より低い値となっている。目標指標については、認知症初期集中支援チームが介入し、チームとしての役割が終了という判断をしたときに医療機関や介護のサービスに繋がっているか否かという形で割合を出している。認知症初期集中チームの対象者のほとんどが困難事例である。チームは3チームあるが、困難事例については高齢者支援センターがチームや関係機関に相談しながら対応することで、支援につなげることができる場合が増えてきており、実際のチームの介入件数は多くはない。チームが終了と判断した時に、医療や介護に結び付いている事例が65%程度を目指していこうというところで挙げさせていただいている。医療や介護に結び付けることができないままチーム支援終了となっても、チーム以外の適切な支援を行う場所に繋いでいくという形で対応している。対応件数が少ない中で、数件の数字の動きで、割合が変化するが、チーム支援の実績として維持していきたいという割合を数値目標とさせていただいている。</p>
<p>委員</p>	<p>109 ページ、ここ2、3年、医師会の方でもACPの普及に関してドクターはじめ医療介護の専門職を集めて、何回か講演会を開き、また、グループワークもやっているが、専門職の中でもなかなか普及が難しい。</p> <p>どのように一般の方あるいは家族にも普及していくか難しいと思うが、市の方として今、ACPの普及に関して何か特に目標にしていることはあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ACPについては、倉敷市連合医師会の先生方にも御協力を得ながら、普及啓発を頑張っているところ。市としても今後も力を入れたいと考えており、ACPについての認知度について、新たに目標指標として挙げさせていただいている。</p> <p>かねてから、講演会形式でACPの普及啓発は実施してきたが、今年度から、市民向けには、講演会方式だけではなく、ケアマネ協会に協力をいただき公民館などで、少人数を対象に啓発を行っている。内容は、ACP単独ではなく、フレイルや認知症予防と組み合わせで開催している。今後はさらにACPについて実践的な内容も取り入れていきたいと考え、現在企画を練っているところ。</p> <p>啓発については前回の分科会で、講演会だけではなく、様々な御意見を多数いただいているので、御意見を参考にしながら市民向けの啓発活動にも力を入れていきたい。また、医療や介護の従事者を対象とした、医療介護連携をテーマとした、ワークショップや情報交換等においても、共通の話題としてACPが出てきているの</p>

	<p>で、医療介護従事者の意見もいただきながら、ACPについて取組を進めていきたいと考えている。</p>
分科会長	<p>前回の分科会でも話題となったが、人を集めて講演会をやっても、集まる人は集まるし、来ない人は来ない。多角的にいろんな方法で周知していかないといけない。</p>
委員	<p>148、149 ページ、気軽に外出するためということで、高齢者は積極的に何かいつも外に出ていきたいという思いがある。御近所に若干不自由な方で、独身で御家族がいない。一番何がしたいかと言ったら、ちょっと外に出たいと言われる。バスを薦めると、バスは高いと言われる。高齢になると車は手放し、公共交通機関、バス、タクシーを利用したり、子どもに送迎を依頼したりしている。そこで、都会はバス券が出たりするが、倉敷市は出ているのか教えてほしい。</p> <p>2つ目に149 ページ、コミュニティタクシーの導入を行う地区数の令和6～8年度、地区は全然変わってないが、明らかに高齢化率はそういう地域は高くなっているし、細分化していかないと足がますます減ってきて、外出しなくなり、会話がなくなり、要介護度が高くなるという負の連鎖になると思うので、お答えいただきたい。</p>
事務局	<p>まず、高齢者施策としてはバスの無料券は出ていない。障がい者施策でタクシーチケットがあるとは聞くが、その詳細の条件はわかっていない。高齢者の施策としてそういうお出かけ用のチケットというものは出ていない。</p> <p>2点目として、コミュニティタクシーの導入支援で地域数が増えていないが、こちらは、地域の方の全員の合意が必要であったり、タクシーの会社も値上げ等、昨今の状況の中で協力しにくいということで、新しくやるという地域が出ていないというのが現状。現状そういう形で伸びていないので、そこを上げるという目標にもならず、現状維持という形になっているということ。福祉としては支え合いの移動支援を頑張っていきたいとは思っているが、なかなか皆様すべてに手が伸びるかというところ。でも頑張っていきたいと思っている。</p>
分科会長	<p>公共交通に関しては便数が話題になっているが、乗務員がいなくて障がい者とか高齢者に限らず公共交通全体が、少し路線が整理される等ありますので、交通政策の部署とも色々連携していかないといけないところと思う。</p>
委員	<p>今の岡山県女性は長生きが全国第1位。男性も多分10位の中に入っていたと思う。老人会も50周年を迎え、芸文館で議員さんや市長に来ていただき盛大に行った。老人会に入っている人は元気。お出かけしたりおしゃれをしたり、少し出ようかという気持ちになると皆さんお元気になられる。</p> <p>しかし、だんだん老人クラブの会長さんが亡くなったり老人会の後継者がいなくなって、老人クラブがなくなったりしている。老人会がないところもある。私たちも動くところに限度がある。家の周りしか動けない。老人会のないところの立ち上げを手助けしてほしい。立ち上げには30人位必要だが人集めが難しい。警察の方からも老人会に入っている人は事故がないと聞く。皆さんの方からもPRしてほしい。</p> <p>また、買い物に皆さんも困られているのではと思うが、古新田はニシナさんが回ってくれているが、自宅からかなり歩くところにしか来てくれない。天満屋ハピーズさんにもお願いしたが、今は手一杯で来てくれない。移動スーパーで近くに</p>

	来ていただけると、そこが話し合う場となるので、切なる願い。
分科会長	行政として取り組むというよりは、住民自身の業者さんへの働きかけや取組も大事になってくるんですかね。
事務局	<p>買い物難民について特に市の方が業者に対して働きかけができるというものではないが、例えば、天満屋とくし丸のような、移動販売などを活用して、そこに来てもらってそこにみんな集まるという形をとっておられる地区もあるとは聞いているので、そのような形で対応されるというようなことを考えていただけたらと思う。</p> <p>老人クラブのPRについては、老人クラブの皆様には御自分でもPRされていて、手詰まり感があるところだとは思っているのだが、今年度、高齢者活躍推進ネットワーク会議で、老人クラブのPRの方向性を考えようというようなことが、この前、議題に上りましたので、その中で考えていけたらと思っている。</p>
分科会長	老人クラブの運営がうまくいっているところの事例を共有化する等、何かそういったことはされているか。
事務局	老人クラブ自体は市とは別団体で、事務局もあって老人クラブの全体の市の老人クラブ連合会と地区の老人クラブ連合会と分かれている。それぞれ活動をされており、活動内容も様々なので、その中で好事例の横展開がうまくされているかは、把握できていない。
分科会長	会の中でうまくいっている事例を共有できたら良いですね。
委員	またうまくいっているところの事例をお持ちする。
事務局	<p>最初にいただいた質問について。26 ページ、サービスの給付費の説明の訂正、補足をさせていただく。介護医療院の令和5年度の数字の話で、先ほど申し上げた推計上の都合で極端な伸びにならないように少し抑えているということもあるのだが、このパーセンテージが60%ぐらいしかないということのそれよりも大きい理由は、計画を立てたときの見込み違い。</p> <p>現段階で介護医療院は市内で大体150ぐらいの床数だが、今年度、転換が完了する予定のところが入るとその床数が1.5倍ぐらいになる。計画を立てたときは、それが1年余裕を持って、令和4年度中ぐらいに転換が済んでいて、5年度頭にはそれが転換しきった状態でスタートしているだろうというふうに見込んでいた。それが、あくまで見込みに対する話にはなるが、1年遅れているということで、その分、本来だったらもうちょっと需要があるだろうというふうに見ていたものが、全然そこに届いていない。これが一番大きい原因と言える。</p>
委員	<p>御説明ありがとうございます。先ほどの委員の発言に関連して、今日お話するのは、自助、共助、公助の公助の部分だと思うが、これからやっぱり自助と共助のところをしっかりとやっていかないと、行政だけでやれることも当然限界があるし、それ以外のところが、どんどん大きくなっていくのではないかとと思っている。</p> <p>私自身が介護老人施設を運営している団体の代表を務めさせていただいているが、やはり自助と共助を中心にやっていかないと、ちょっと難しいのではないかと感じているので、私の施設がある地区では、老人クラブが非常に活発に活動されていて、非常に助けられているし、私達もぜひ協力をしていきたい。</p> <p>質問として、168 ページの施設整備のところ。施設系の業界の中では、もう</p>

	<p>施設整備の時代は終わったという認識。これから施設に関しては、現状の維持、それからサービスの向上が課題であって、この新規の整備という時代ではないというふうに認識している。</p> <p>そういう前提のもとでこの表を見させていただいて、看多機とか定期巡回というのは、これから在宅医療を進めていく上で非常に必要なサービスだと思っているし、地域密着型特養に関しては、その下の表にあるように、本来なら全部の日常生活圏域が埋まっていなければいけないのにまだできてないという状況であり、整備計画は理解できる。</p> <p>特定施設入居者生活介護に関しては、もう既にサ高住という形で存在している既存施設からの転換整備を想定したものだろうから分かるが、グループホームをさらに整備するというのはどういうニーズから来ているのか御質問させていただきたい。また、2ユニットの整備は新築か増築か、どういう意図で増床を考えているのか。</p>
事務局	<p>グループホームの整備計画とユニット整備についての御回答ですが、認知症対応型グループホームについては、第8期終了時点ですべての日常生活圏域に整備が完了しているが、第1回目の分科会でもデータをお示しさせていただいたが、今後、認知症高齢者の方の増加が見込まれることから、まだグループホームの整備は必要と考えている。</p> <p>ユニットの整備方法は、市内全域で2ユニット 18床を公募する予定であり、1施設 18床というのが理想ではあるが、応募状況によっては増床もあるかもしれない。まだ公募していないので、そこまでは今のところは考えていない。</p>
委員	<p>全体的には非常に抑制された計画で、望ましいというふうに私も考えている。</p> <p>161 ページ、介護人材の確保。先週、県の同様の委員会があり、私も出席させていただいた。他の委員さんの方も言われていたところだが、まず人材確保のところ、2行目のところで県と連携して外国人の介護人材を確保するための事業の実施検討を行いますというふうにある。</p> <p>これは非常に重要なことで、実際もうかなり外国人の方の導入は急速に進んでいる。うちの施設でも、延べ数で言えば、もう20人近い方がいるし、例えば他の施設だと40人一度に採用するとかそういうところもある。東京都だと特養で職員の半数以上が外国人という施設も出てきている。これからもますます増えていくような実情なので、非常に重要な位置を占めるようになりつつあるということを御認識いただきたいと思います。</p> <p>次の介護従事者確保事業についても、本当に人がいない。介護される方、外国の方、日本人の方も当然いらっしやらない。外国の方も実はもう引き抜き合戦になっている。うちの施設の方も2人ほど東京の事業者引き抜かれた。何が違うかというとお給料が違う。あの方々はネットワークでもすごく敏感に動かれるので、もう全国の方がインターネットに繋がっている状況で、今はそういう時代になっている。介護事業者確保事業のところ、やはり給与水準が低いというところが、大きな問題になっている。</p> <p>ベースアップ3%、5%っていうニュースが流れていると思うが、医療介護事業者というのは公的価格で、政府に上げていただかないと全く上げられないので、市</p>

	<p>の方が国の方にそのあたりを強く言っていただけたらなというふうに思っている。</p> <p>老健に関しては、全国平均で収支差額、一般企業でいう利益率が昨年1.9%のマイナスだった。6割の事業所が赤字になっている。特養も多分半分弱のところ赤字の状況。外国人材に関しては、県内の特養で職員が確保できなくて定員を減らしているという事業者さんも知っているの、今そういう時代であることだけ委員の方々に御認識いただければと思う。</p>
分科会長	<p>先程、バスの乗務員の話をしたが、介護分野にしても障がい分野にしても、求人を出してもなしのつぶてで、手を挙げる人がいない。人手不足が業務も質の部分にも影響を与えるということになっていると思う。</p>
委員	<p>少し話が戻るが、先程、地域の方の移動支援にあたる買い物支援というところの話題があったと思う。地域の中でもコミュニティタクシーを導入しようかなというふうに考えられているところもあれば、何かいろんな条件が合わずにそれが難しくてというところについて、地域の中の全体だったら難しいけど、学区単位であれば、自分たちの中での移動支援ができるなというふうに、仕組みを使われているところもある。</p> <p>215ページでも地域の社会福祉法人さんが使われている車両を、無理がない時間で活用させていただきながら、近くにスーパーが無いエリアで皆さんに集まっただいて、日中の時間で買い物をしていただいいてまた戻っていただいいてという、地元の地区社協さんとかの社会福祉法人さんなんかは連携しながら買い物をされているという例もある。</p> <p>本当にいろんな団体さんが連携することによって解決できる選択肢の数も増えてくるのかなというのもあるので、テレビの中の東京都でやっている事例だと、参考にならない事例もあつたりするけど、同じ倉敷市の中でやっている事例だからということで発信させていただくことによって、参考になるという御意見もいただいいて、また同じ倉敷の中だからちょっとその事例聞きに行こうかなというふうなことで、ネットワークの中で繋がって違うところでもそれが発生してっていうことに繋がってくると思うので、そういった事例も生活支援コーディネーターとしても発信していきたいなとも思っている。</p> <p>また、委員のされている活動もぜひ教えていただきながら、発信させてもらいたいと思うので、よろしく願いしたい。</p>
分科会長	<p>今のお話、社会福祉法人の中の公益活動として何か買い物支援をしているという話を私も聞いた。いろんな団体が活動してお互いに助け合うという、先ほど委員がおっしゃった自助、共助、そういった部分に力を入れなければいけないかなと思った。</p> <p>他に意見はありませんか。(無言) 無いようでしたら、この素案につきましてはこの後パブリックコメントがあるので、今後の修正等は分科会長に一任いただきたいがよろしいか。(拍手。会の了承を得る。)</p>

■その他質疑応答

発言者	発言要旨
事務局	12/12 から 1/11 までパブリックコメントを実施。 次回第5回は1月24日(水)予定。水道局3階大会議室と701会議室で調整中。会議室が決まり次第、改めて通知する。

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名します。

倉敷市社会福祉審議会 高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定専門分科会

分科会長 後藤 祐之